

# 「魅力ある授業づくり」のために



中部大学では、「魅力ある授業づくり」に向け、平成20年度からWebによる「授業評価システム」と「授業改善アンケート」がスタートしました。春学期と秋学期の評価を終えて、ウフトの学生編集委員と編集委員の先生を中心に3月30日に座談会を開き、意見を伺いました。

## Webを利用した授業評価を終えて



杉井 俊夫

**杉井** まず、授業評価結果を見た感想を聞かせてください。  
**名倉** どの授業も回答率が低いのは驚きました。コメントをきちんと書いている先生とまじりたく書いていない先生がいることが分かりました。

**北川** 評価の平均が自分の回答と似通っていたので、みん



北川 結衣

**栗田** 自分は授業評価を春も秋もやっていなくて、今回結果を初めて見ましたが、授業評価してる学生は真面目な人ばかりだなと笑。真面目な人だけあって、評価を見ると確かに授業はこんな感じだったなあと思えました。コメントも結構的確に書いてありました。学生のコメントに対して先生もきちんとコメントを返してくれると、授業評価したかいがあると思います。

「出席者」 北川 結衣 応用生物化学科3年

栗田 恵一郎 機械工学科3年

名倉 美穂 コミュニケーション学科3年

櫻井 誠 応用化学科准教授

高木 徹 児童教育学科准教授

「進行」 杉井 俊夫 大学教育研究センター副センター長

都市建設工学科教授

(順不同 敬称略・学年は開催時のもの)

**杉井** 学期終了時に行う「授業評価」と、学期中に行い、その授業に対する意見を先生に伝えられる「授業改善アンケート」があるわけですが、授業改善アンケートについて先生から案内はありましたが？

**学生全員** なかったです。

**杉井** 後輩のために授業が改善されればいいのか、自分たちの授業で改善してほしいか率直にどう思いますか？

**栗田** 自分が受けている授業が良くなっていくのは良いと思います。でも、途中経過のアンケートとなると、授業は15回しかないので、何週目を実施するか、時期が大事にならなくてはと思います。



栗田 恵一郎

**杉井** 先生方はどう思いますか？

**高木** 授業内容は授業がすべて終わった時点で評価してほしいですね。前菜を食べただけで、この店の料理は美味しいと言ってほしくないわけです。

一方で、数回の授業で分かるこ

と例えば「声が小さい」「板書の字が小さい」といったことはすぐに言えることです。

**杉井** 「授業改善アンケート」をもつ少し機能活用させる必要があります。学生もシステムを知って、授業改善アンケートやってください」と教員に要望を出すというのも二つの案かもしれません。



櫻井 誠

**櫻井** 学生の回答率は春学期の14.2%から秋学期は12.3%に下がったんですね。教員側はどちらもだいたい50%です。

回答率を上げるには、平成19年度以前のように授業中に半ば強制的に授業評価をするようにしないと無理ではないかと思います。私自身、春学期はちゃんと学生に授業評価をするよう授業中に呼びかけたのですが、秋学期は忙しくて、呼びかけるのをすっかり忘れてしまいました。

**高木** 回答率が低くても、授業評価に参加した学生は非常に真面目な学生ばかりで、授業に対して好意的、前向き

に捉えてくれているのではないかと推測できます。評価そのものは信頼できると思います。

**杉井** 先ほどから回答率の結果が話題になっています。評価結果について、真面目な学生が回答しているのである程度信用できるという意見と、回答率が低いのであまり信用で

## 魅力ある授業づくりに 授業評価を反映させるには

**杉井** 「魅力ある授業づくり」を有効に行うためにWebによる授業評価の結果をどううまく使っていけばよいかを聞きたいと思います。

**栗田** 自分が授業評価をするときに、前年度と同じ授業の評価結果が分かるというと思います。例えば、前回の学生のコメントで、「声が小さかった」と書き、それに対して先生が次はマイクを使ってみまう」という回答だったとすると、今回は改善されたかどうか、前回の評価が生かされていたかが分かって良いと思います。

**高木** それは学生と教員のコメントをまとめて載せないことには分からないですね。

**櫻井** 声が明瞭だったかなどは数値としては出ています。

**杉井** 現在は、質問に対する

きないのではないかという意見があります。これは私の個人的な意見ですけども、例えば少数意見であっても、学生は一人ひとり違うので、良い意見でも悪い意見でも、そういう意見の存在を認めることがわれわれ教員としては重要なのかなと思います。

平均的な数値は見えますが、学生の「自由記述」の内容は担当の先生以外は見ることができないです。どちらにしても前年度の集計結果があった方が二つの比較になりますね。その他に何かありますか。

**北川** 回答率を上げるためには、授業の時に先生が呼びかけたり、プリントを配って授業評価してくださいと言ったり、ポスターを作ってもいいぐらいの感じがします。学生の回答率が少ないと、評価の信用度が低いのかなと私は思います。

**名倉** 学生は1人1台ノートパソコンを持っているので、授業中にその場で回答するようなことをしないと、回答率は上がらないのではないかと思います。

**栗田** 認知度を上げるとい

うことは重要だと思えます。僕は座談会に出席が決まってからWebで確認して、「あこ

んなのあったんだ」と思ったくらいなので。

## 学生の意見を取り入れ より良い授業に

**杉井** それでは最後に、皆さんが考える「良い授業とは」を教えてください。

**名倉** 「次につながる」のが分かる授業が良い授業だと思います。私が良いなと思ったのは『メディアの歴史』という授業で歴史をぎゅちり教えていただいたので他の授業を受けても「あの時の授業が役に立っている」と実感できました。あと、授業目標が明確で、先生がそれを学生にきちんと伝える授業が良いと思います。それについて追求しようという気持ちになります。

て聞いけてくれたり考えさせてくれるような授業だと、自分の考えも広がっていきますね。

**栗田** 難しくてもやっている内容が分かる授業、というのはやる気につながります。難しい式の計算でも、実用例などを挙げて、「こういうことに使われています」という説明があると関心がわきます。

**櫻井** 僕は教壇に立つようになって10年になりますけれども、その間、授業方法を試行錯誤しながら変えてきました。OHPを使っていた時は、板書を軽くしか書かなかつたので、授業が全部終わつたときに自分のノートを見て、何が書いてあるかさっぱり理解できないと言われました。そこでOHPを表・式・図・写真だけにしたら今度は、板書が多すぎる」と言われたんです。今度はパワーポイントを作ったら、学生が書き写すのを待たず、書いてる途中

なのに、次のスライドに移ってしまいやる気が削がれる」と言われました。今は最初にプリントを渡して、教科書も使いながら説明し、板書は後からノートを見たら試験勉強ができるようにしています。授業はだいたい70分講義をして、最後20分は演習をやっています。あとは授業内容をどのレベルにするかです。「良い授業」は永遠のテーマですね。



高木 徹

私の理想の授業は、大学を卒業して5年、10年経つた時に「あの授業良かったな」とか「あの時の先生の言葉が生きている」と思い出してもらえる授業です。逆に言うとう学生には、今「役に立ちそう」という部分だけで判断してほしくないと思います。「無用の用」という言葉があります。役に立たないと思われたものが実は役に立つこともありうるわけです。

**高木** 私自身も悩みがありまして、学生が参加できる双方向授業の方が、満足度が高くなることはわかっているんです。例えば、私の秋学期の幼児教育学科の授業は、パワーポイントを使って紙芝居を作るもので、学生が順番に前に出て自作の紙芝居を発表します。学生は喜んで積極的に参加するんですけども、今度は与えるべき知識の量が減ってしまうというジレンマに陥るんです。



名倉 美穂

**北川** 板書をするだけでなく、ノートなど時事問題を絡め、社会全体をひっくり

返すようにしています。授業をするだけでなく、ノートなど時事問題を絡め、社会全体をひっくり返すようにしています。授業をするだけでなく、ノートなど時事問題を絡め、社会全体をひっくり返すようにしています。

あるのですが、それより学生の学習意欲に火を付けることが重要なと思います。そうすると、全部を教えなくても学生が自分で進んでいくようになるのではないかと思います。そのためにもWebによる「授業評価システム」と「授業改善アンケート」をぜひ有効に活用していただきたいと思っています。